

topics

人追従型
運搬ロボット実演会

01

10月4・5日、弘前市りんご課主催で農作業追従型ロボット制作会社2社による実演会が開催された。輝翠TECH社製はA-搭載で、画像認識によって走行しやすい路面を選び、園地の地図を把握。追従だけでなく選果場まで単独走行が可能であるが、今後天候面などの課題をクリアする改良版を制作予定だ。

アイ・イート社製は、センサー運転のため完全追従型。小雨の使用も可能だが、積載面積を改良し次第、販売も視野に入れている。農作業の省力化に役立つ技術の発展を期待したい。



注目を集める追従型ロボット
(輝翠TECH社製)

topics

「回転寿司みたい!」

02

10月6日、相馬小学校2年生が、当JA販売課を訪れ、フルーツステーションを見学した。

児童5名は素早く動く選果場の機械を興味深そうに見つめ、バーコード式フリートレイに載って運ばれるリンゴを見ると「すごく早い」「回転寿司みたい!」と目を輝かせながら、終始集中して田中瑠偉さんの説明を聞いていた。

地元で育った最高の飛馬リンゴが、この場所から鮮度重視で出荷され、全国のお客様を笑顔にしている。今回の見学で、それが少しでも伝われば幸いだ。



リンゴ作業の機械に見入る児童ら

topics

共防連立木審査

03

10月24日、中南地域県民局農林水産部農業普及振興室と農業振興課は、管内全33箇所(園地)で立木審査を実施。品種はふじや王林で、肥大・着色・収量・病害虫・管理の5つの項目で、本年産の出来栄を確認しながら審査した。

本年産は、夏の豪雨の影響から、輪紋病や炭疽病、褐斑病が一部で見られたが、審査対象の園地ではおおむね良好な生育であった。同局白川真美子指導員は「技術の高い相馬の中でも、共防連代表で出展された生産者方の園地は見事です」と話していた。



感心しながら審査にあたる
中南地域県民局 白川指導員(中央左)

topics

高密植わい化
長野県視察

04

10月27・28日にリンゴ高密植わい化栽培先進地視察研修が長野県で開催され、リンゴ生産者の成田敦郎さんと当JA齋藤指導員が参加した。

定植7年目の園地では壁一面のように32玉前後のリンゴが成っており、反収は8トン超。密植効果を活かして苗木は50cmピッチで定植され、肥大よりも収量重視との説明だったが、肥大も十分な状況であった。

今後も振興課では、先進地の情報を取得する一方、管内の実情に合わせた栽培方法を模索し、生産量維持を目指していく。



将来を見据えながら
最先端技術を学ぶ成田さん(左)

収穫の喜びを体感！

05

5月初旬から溝江友貴さんの園地で、相馬小学校の3年生23名が当JA女性部や保護者ら協力のもとに取り組んできた『りんご学習』。最後の収穫作業が10月31日に実施された。

最初に農業振興課齊藤指導員より、リンゴはツルがついたまま収穫できるよう指を添えてもぐり、土のついた手で触らないことなどの説明を聞いた後、児童らは自分の絵入りリンゴを収穫。シールを剥がすと、あちこちで歓声が上がリ、保護者をはじめ大人まで嬉しい気持ちになった。

その後、女性部副部長の中嶋美保子さんが用意した名月・シナノスイート・シナノゴールドの食べ比べを行うと、児童らは「味が全然違う！」「このリンゴが好き！」など感想を言い合いながら、このあと給食が食べられるのかと心配になるほど、次々と面白いように食べていた。

授粉・実すべり・袋掛け・葉取り・袋掛け・収穫と、全6回の学

習を通して好天に恵まれた令和4年度の『りんご学習』は大成功。食物を作ることの大切さと、地元の基幹産業への理解を深めることができた。

今後児童らは、体験したことや調べたことを元に、作文と壁新聞を作成する予定。



相馬のリンゴは格別においしいね！



3年生の児童23名、一年間リンゴ作業がんばりました！ 10年後、新規就農のご相談お待ちしております♪